

八雲町社協だより

ともに支え合う、安心・安全・福祉のまちづくりを目指して

24時間テレビチャリティー 福祉車両寄贈



この度、24時間テレビチャリティー委員会様より福祉車両（リフト付きバス）が、八雲町社会福祉協議会熊石支所へ寄贈され、3月18日（月）にSTV函館放送局で贈呈式が行われました。

贈呈されました車両は、利用者に快適に乗っていただき、安全運転に心掛けて大切に使用させていただきます。

24時間テレビチャリティーにご協力いただきました皆様に感謝を申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成31年度 八雲町社会福祉協議会事業計画

基本方針

平均寿命が伸び続け、団塊の世代が高齢者世代に突入した我が国は、かつて経験したことの無い超高齢化社会を迎えています。また、人口減少や家族・地域社会との関係性の変化等により、社会的孤立や子どもの貧困が顕在化し、既存の制度では対応困難な複合的課題が増加するなど、福祉を取り巻く環境は新たな局面を迎えています。地域福祉を推進する中核的団体である八雲町社協においても、こうした課題に対応するため、サービスの見直しや人材育成を積極的に進めていく必要があります。

当社協の事業を担う職員の安定確保に向けては、無期雇用契約への円滑な転換と、働きやすい職場づくりのための環境整備、処遇改善に努めます。

地域福祉については、国は、制度・分類ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域を育成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」の実現を目指しています。

社会福祉協議会は、地域福祉の推進役としてこれまで行ってきた地域福祉活動やボランティア活動などを、その中でどのように活かし、役割を発揮していくことが求められています。

そのような中、誰もがいきいきと安全に安心して暮らし続けることができる地域社会を実現していくために「ともに支え合う、安心・安全・福祉のまちづくり」を当社協の基本理念に掲げ、実現に向けて、住民の主体的な参加によって地域そのものを生活しやすい場にしていく地域支援と介護保険事業等の住民へ直接的にサービスを提供する個別支援の両方の役割を果たし、当社協の特性を活かした地域福祉活動を推進して、住民の協力と参加のもと支え合いによる地域づくりの取り組みと推進が一層求められています。

また、社会福祉法の改正等により社協は高い公益性が求められる社会福祉法人として地域福祉を推進する「協議体」として公益的な取り組みを推進することも期待されています。

そのため、目的を共有する全ての個人（地域住民）・団体（行政・町内会・福祉施設・福祉団体・ボランティア等）と協力・連携・協働しながら、昨年6月に策定しました「新3期地域福祉実践計画」の着実な実践と構築を目指し、次に掲げる重点推進事業10項目の展開に役職員一丸となって取り組んでまいります。

また、町からの受託事業を含め、当社協が中心となっている在宅福祉サービス事業の実施にあたっては、事業効果が最大限発揮されるよう引き続き遂行に努めます。

さて、八雲町社協は、デイサービス【通所介護】・居宅介護支援・訪問介護（熊石地域）の三事業の介護保険事業所を開設しております。平成30年度には介護報酬改定があり、2020年後期高齢者の大幅な増加を見据えた介護サービスの適正化を図り制度の持続性と安定化に重点が置かれた内容であり、ほぼ同額の介護報酬額となりました。昨年度（平成30年度）は、三事業の介護サービス事業のうち、デイサービス【通所介護】と訪問介護（熊石地域）の二事業が利用者の利用中止等による大幅な減少や新たな利用者確保への伸び悩みなどにより、本年度（平成31年度）の予算は、昨年度実績等の利用者数を見込むことから介護保険収入予算が減収となります。

今後においても介護報酬への好機改善の兆しが推し量れないことからサービス提供体制の改善が必要となってきますが、社協が介護サービス事業を実施していることにより、介護やケアマネジメントの専門性が蓄積され、個別の相談に対し総合的かつ即応的に対応することができま

す。そのため、こうした役割を確実に果たすためにも、常にこの状況を把握しながら経営の安定化と利用者のサービス向上に、各事業所の事業計画（案）を基本に引き続き信頼され親しまれる事業所として、新たな利用者確保に一層の強化と社協らしい事業展開を図りながら、継続的な事業経営に努めてまいります。

重点推進事項

(1) 地域福祉実践計画の推進

5年計画（平成30年度～平成34年度）の新3期地域福祉実践計画については、地域福祉実践計画推進委員会において、必要に応じ事業の進行管理や評価・見直しを行ってまいります。また、関係団体等との協議や相互協力を図り、新規事業をはじめとする計画事業の着実な実施に取り組んでまいります。

(2) 地域福祉活動の推進

地域福祉活動は「みんなで支え合う」を理念とし、社協活動との協働を促進するため地域住民やあらゆる団体・組織と連携した住民福祉活動を推進し様々な課題解決のための取り組みを行ってまいります。

隔年実施の福祉懇談会は本年度で7回目となります。福祉関係者が一堂に会し、地域福祉の意義や役割、また推進方法等について関係者と共有すべく、内容の充実に努めてまいります。

昨年、胆振東部地震が発生し、北海道全域において停電「ブラックアウト」が起こり、やむを得なく中止しました「ふれあい広場」の開催や乳酸菌飲料配布などの高齢者見守り事業の実施、さらには町内会等の自主的な福祉活動への支援協力、「地域における生活支援体制の構築」についても引き続き積極的に支援協力してまいります。

(3) ボランティアセンターの運営とボランティア団体との連携

地域福祉を推進するためには、ボランティアの協力は不可欠であります。

そのため、ボランティアスクールや青少年福祉活動体験事業の開催、ボランティア愛ランド北海道への参加を通じ、ボランティア活動の推進と育成を目指してまいります。また、各ボランティア団体の活動紹介や支援体制に引き続き取り組んでまいります。

ボランティアセンター（愛情銀行）事業は、主に町の補助金と町民の寄付金を基にボランティア団体への運営助成やボランティア育成事業を実施しています。このうち寄附金は減少傾向が続いていることから、より善意が広がる工夫によって事業の見直しを図ってまいります。

(4) 生活困窮者自立支援活動の実施

経済困窮者や社会的孤立の状況にある生活困窮者に
対し、生活困窮者自立支援事業「生活就労サポートセ
ンターおしま」と連携し自立支援相談を行ってまい
ります。

また、低所得者や経済的な生活課題を抱える世帯に
対し、生活一時金(社協単独事業)、生活福祉資金(北
海道社協事業)の貸付と相談支援を行い、経済的自立
及び生活意欲の助長促進を図ってまいります。

(5) 在宅福祉活動の推進

町からの受託事業を中心に実施している、給食(八
雲)、移送(八雲・熊石)、高齢者訪問(熊石)サービ
スなどの在宅福祉サービス事業については、利用者が
より良い生活が送られるよう、サービスの質の向上に
努めてまいります。町民の善意により寄贈された車椅子
やベットの有効活用を行っている福祉用具無料貸付
事業について引き続き実施してまいります。

(6) 相談・自立支援事業

心配事相談の多くは経済的要因が大部分であり、行
政や関係者と連携を図りながら相談援助活動に努めて
まいります。また、各種事業や活動を通じ住民の悩み
に速やかに相談にのり適切な助言・支援等を合わせて
行ってまいります。

北海道社協からの受託事業であります、判断能力が
十分でない方の金銭管理等を支援する日常生活自立支
援事業は、利用要望に対応しうる体制を整え、生活支
援員の確保等実施体制の万全を期してまいります。

(7) 介護保険事業所の健全運営

介護保険事業(通所、居宅、訪問)は、利用者満足
度アンケートにおいて高い評価を受けており、今後
においても利用者の声を受け止め親しまれる介護サー
ビスの提供に努めてまいります。

しかし、介護報酬の改定や利用者の大幅な減少傾向
から収支の均衡を図ることが困難な状況となっております。
この間、運営方法の見直しを図り改善に努めて
きましたが、一定の成果はあったものの、初期の目標

には至ってはおりません。

今後の介護報酬の動向は不透明であり、より一層慎重
な事業運営の在り方や改善計画が求められることか
ら、各事業所の収支の均衡を基本に、介護保険事業総
体として運営方法等について検討してまいります。

(8) 財源の確保と財政の確立

サービス等の委託金、介護保険事業にともなう介護
報酬、町民等からの愛情銀行への寄付金、さらには住
民の理解と協力を得た自主財源であります個人会費・
賛助会費・特別会費及び共同募金助成金など多様な公
的財源により運営されております。

会費などの自主財源は、人口減少や長引く経済不況
及び景気後退等により厳しい状況にあります。役員
員一丸となって財源確保に努めてまいります。

① 会費納入について
自主財源の中で大きな割合を占める会費については、
引き続き住民や町内会等の理解を得ながら個人会費の
納入と賛助会費・特別会費の加入促進に努めてまい
ります。

② 共同募金への協力
住民の善意と助け合いの精神により、地域福祉推進
の取り組みの財源を支える赤い羽根共同募金は、社協
が行っている各種団体助成金の原資であり重要な財源
であります。

そのため、八雲町共同募金委員会が実施する募金活
動に対し積極的に参加し支援協力してまいります。

③ 基金・積立金について
社協には、資本金となる基本財産のほか、福祉基金、
財政調整基金、人件費積立金、備品等購入積立金及び
退職手当引当金があり、その管理には八雲町社協資金
管理運営方針等に基づき万全を期してまいります。

また、資金状況に応じ積立と基金設置目的に沿い有
効活用を図ってまいります。

(9) 社協組織運営の充実

① 啓発・広報活動
「社協だより」、「支所だより」を年4回発行し、
各種事業や活動の周知を図り社協活動の啓発に努め
てまいります。

また、ホームページを活用した広報活動も行ってま
います。

② 組織運営の充実

評議員会、理事会の開催を通して、法人運営や事業
推進の方向性を決定するとともに、監査の実施により
法人運営の適正化を図ってまいります。

また、必要に応じ各委員会及び正副会長会議を開催
し個別対応を図ります。さらには研修会への参加や関
係団体との交流等を通じ情報収集に努め、地域福祉を
推進する団体との役割・機能を発揮し、地域に理解と
信頼を得られる社協づくりに努めてまいります。

職員研修会を年2回開催するなど、職員の資質向上
と専門性の確保に努めてまいります。

③ 地域間交流の促進

平成26年度より開催している渡島噴火湾社会福祉協
議会(鹿部町・森町・八雲町・長万部町)連絡に積極
的に参加し、近隣社協との連携・交流を一層推進して
まいります。

また、八雲・熊石両地域の交流についても、引き続
き各種行事・事業等の相互参加等を図りながら、交流
促進を推進してまいります。

④ 災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの策
定

災害時のボランティア活動が円滑に展開し、被災者
支援や復旧活動が速やかにできるよう、日本赤十字社
北海道支部、社会福祉協議会及びボランティア団体等
との連携を図り、災害においてボランティア活動が円
滑に行われるよう、町・関係団体・ボランティア等と
協働して八雲町災害ボランティアセンター設置・運営
マニュアルを策定してまいります。

(10) 町からの受託事業の実施

町からの受託事業は次のとおりとなっております。遺漏
のないよう努めてまいります。

- ① 八雲町総合保健福祉施設シルバープラザ管理業務
- ② 寝たきり高齢者等移送サービス事業(八雲・熊石地域)
- ③ 高齢者等給食サービス支援事業(八雲地域)
- ④ 緊急通報体制整備事業(八雲・熊石地域)
- ⑤ 生きがいデイサービス運営事業(八雲地域)
- ⑥ 要介護認定訪問調査事業(八雲地域)
- ⑦ 介護予防サービス計画及び介護予防ケアマネジメン
ト作成業務(八雲地域)
- ⑧ 独り暮らし高齢者訪問事業(熊石地域)

平成31年度八雲町社会福祉協議会収支予算

〔本所拠点区分〕

(単位：千円)

○法人本部運営事業	53,333	○通所介護事業	30,906
○共同募金助成金事業（本所）	1,874	○居宅介護支援事業	17,792
○在宅福祉事業（本所移送・給食）	6,114	○ボランティアセンター（愛情銀行）事業	1,156
○緊急通報システム事業	2,260	○生活一時金貸付事業	1,500
○ふれあい広場事業	1,553	○生活福祉資金貸付事業	167

(収入)

(支出)

(単位：千円)

科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
会 費 収 入	3,626	人 件 費	85,045
町 補 助 金 収 入	32,040	事 業 費	10,971
町 受 託 金 収 入	23,359	事 務 費	7,635
道 社 協 受 託 金 収 入	287	助 成 金 支 出	530
共 同 募 金 助 成 金 収 入	1,874	共 同 募 金 助 成 金	1,874
介 護 保 険 収 入	41,859	貸 付 事 業 支 出	1,500
寄 付 金 収 入	300	施 設 整 備 支 出	4,073
受 取 利 息 配 当 金 収 入	7	積 立 資 産 支 出	1,153
雑 収 入	29	サ-ビス区分間繰入金支出	3,664
償 還 金 収 入	1,500	予 備 費	210
積 立 預 金 取 崩 収 入	5,000		
施 設 整 備 費 等 補 助 金 収 入	952		
拠 点 区 分 間 繰 入 金 収 入	175		
サ-ビス区分間繰入金収入	4,288		
前 期 末 支 払 資 金 残 高	1,359		
本所拠点区分収入予算合計	116,655	本所拠点区分支出予算合計	116,655

〔支所拠点区分〕

(単位：千円)

○共同募金助成金事業（支所）	885	○訪問介護事業	10,149
○在宅福祉事業（支所移送）	1,652	○小口資金貸付事業	501

(収入)

(支出)

(単位：千円)

科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
町 受 託 金 収 入	2,283	人 件 費	9,743
共 同 募 金 助 成 金 収 入	885	事 業 費	1,939
介 護 保 険 収 入	7,734	事 務 費	70
自 立 支 援 費 等 収 入	4	貸 付 事 業 支 出	500
受 取 利 息 配 当 金 収 入	2	共 同 募 金 助 成 金	885
雑 収 入	1	予 備 費	50
償 還 金 収 入	500		
前 期 末 支 払 資 金 残 高	1,778		
支所拠点区分収支予算合計	13,187	支所拠点区分支出予算合計	13,187

収入予算総合計

129,842

支出予算総合計

129,842

デイサービスセンターは、

利用者さん一人ひとりの日々の生きがいの場として、また、生活の「ハリ」と「リズム」を作れる場として通って頂ければ幸いです。

サービスは送迎から始まります。皆さんの家に職員がお迎えに参ります。



センターに到着したらうがい、手洗い、健康チェック(体温、血圧、脈拍、握力3ヶ月毎、毎月体重測定)を行います。

次にラジオ体操、うた、機能訓練を行い、他者との交流や機能維持を図っていきます。



夏祭り

こんなところでは。



昼食は季節に合わせた食材を使用し調理しております。希望があれば粥食をご用意致します。

食後は、休養時間となり自由にお過ごし頂けます。



午後からの入浴は利用者さんが出来ない部分を介護員がお手伝い致します。

介護員が見守りをしておりますので安心して入浴ができます。入浴後は水分補給、おやつを食べて頂き、3時になりましたら、各家庭に送らせて頂きます。

生活相談、家族介護教室も行っております。



運動会



社協会員への加入をお願いします!!

皆さまからの社協会費は

地域福祉事業に活用されています。

当社協は、町民皆様のお力添えに支えられながら、地域福祉、在宅福祉そして介護保険事業所の運営を推し進めております。

社協の運営財源は、町民皆様から収めていただく会費、町補助金、受託事業の受託金、赤い羽根共同募金の助成金、そしてボランティアセンター(愛情銀行)によせられた寄付金(浄財)、介護報酬等により賄われています。

主な使い道は、職員の人件費、介護保険事業、毎年開催するふれあい広場事業(敬老会)、在宅福祉事業(移送サービス事業、給食宅配事業、緊急通報システム設置事業等)、会報(社協だより)発行事業、各種福祉団体、青少年団体への助成事業等に使われております。

お願いする会費は次のとおりです。

◎ 一般会費 500円

本年度もご理解賜りご協力下さるようお願いするとともに、全戸加入下さるようご協力をお願いします。

◎ 賛助会費 一口 3,000円

後日、社協役職員がお伺いいたしますので、社協の地域福祉事業にご理解いただき、一口以上のご配慮下さるようお願いいたします。

平成30年度 ボランティアスクール開催!!

平成31年3月12日(日)シルバープラザにてボランティアスクールを開催いたしました。



ボランティアの意義を再確認するとともに、ネットワークづくりや知識・資質の向上を図ることを目的に開催しています。今回は、約46名の方が参加してくれました。

午前の部では、2名の講師の方に来ていただきました。

1人目は、北海道総合福祉研究センター事務局長池田ひろみ氏をお招きし、『地域に求められるこれからのボランティア』をテーマに講演していただきました。

池田さんは、児童発達支援の代表をなさっており、高齢者だけでなく、児童、障がい者などの分野でもご活躍されており、各地域ではどのようなボランティアが求められているか、助け、救いを求める方をいかに孤立させないようにするか、など体験をもとにお話していただきました。

2人目は、八雲町保健福祉課包括支援係生活支援コーディネーター奥田文恵氏が八雲町で行っている『生活支援体制整備事業』について講演していただきました。「元気なうちは、住み慣れた家で暮らしたい」と誰もが思うこと。「あったらいいな」「これがあるから八雲でもずっと暮らせる」といったような『地域社会の助け合い、支え合い、自分たちで住みよいまちをつくる』ことを押し進める事業で、八雲に住んでいる方からの声や今年1年間の活動内容、事業の説明を講演していただきました。

No.24

ボラ通

30年度 ボランティア



平成30年度 ボランティアスク



午後の講師には、ヨガサークルを行っている大村照子氏をお招きし、『ながいき出来れば良いという時代は終わった』をテーマに、健康づくりのためのヨガ講習を行いました。ボランティア活動を行う方もまずは自分が健康でなければならない、ということで、ヨガを通しての健康づくりを行いました。

激しい動きはないものの、体と呼吸を使い、体の中からポカポカ、普段使っていない部分を動かし、自分の身体と向き合う有意義な時間を過ごすことができました。

毎週月曜日公民館にて10:30~12:00と13:00~14:30、月曜日と水曜日はシルバープラザにて18:30~ヨガサークルを行っているそうなので、興味のある方は是非ご参加下さい。



八雲町社会福祉協議会では
居宅介護支援と八雲デイサービスセンター（通所介護）
を気軽にご利用できるアドバイスの**出前説明会**を
行いますので、気軽にご相談ください。

介護保険サービス、介護保険内でのサービス、介護認定の手続きなど年々制度が改正され、とても分かりにくいと思います。

利用者や家族の負担を少しでも軽減するための制度であります。

居宅介護支援事業所の介護支援専門員（ケアマネジャー）がご相談を受け、よりよいアドバイスを行います。

また、介護保険事業の一つでありますデイサービスセンター（通所介護）は、当社会福祉協議会が経営しております。自宅で家族と生活しながら介護保険サービスを利用して日常生活をより楽しく過ごすための通所介護であります。

各町内会及び老人クラブ、あるいはグループ単位でもよろしいので、会合などの中で、説明する時間を設けていただければ、それに合わせて出前説明会を行いますので、どうぞ気軽にご利用ご相談願います。



八雲町社会福祉協議会（八雲町栄町13番地1）シルバープラザ内
八雲町社協指定居宅介護支援事業所／八雲デイサービスセンター
電話（0137）64-2112 FAX（0137）63-2160

社協職員の動き

この度、次のとおり異動がありましたのでお知らせいたします。

*平成31年3月31日付退職者等

田畑 秀哉（熊石支所長）
村上 千枝子（熊石訪問介護係主任）
伊勢田 智明（在宅福祉係運転手）
角谷 裕子（デイサービスセンター係調理員）

*平成31年4月1日付昇任

デイサービスセンター係主任 本杉 千加子（デイサービスセンター係）

*平成31年4月1日付採用

熊石支所長兼訪問介護事業所長 澤野 治
在宅福祉係運転手 大坂 敏明
デイサービスセンター係介護員 山上 恵太

～ よろしくお願い申し上げます ～



社協活動メモ

十二月

- ・第二回八雲町総合開発委員会
仕事納め式(十二月二十八日)

一月

- ・仕事初め式(一月七日)
- ・熊石地域中学生冬休み体験ボランティア事業
- ・第二回八雲町民生委員推薦会
- ・八雲ボランティア新年親睦会
- ・第3四半期監事監査
- ・八雲町身体障害者福祉協会新年会
- ・第五回理事会
- ・八雲町共同募金委員会第三回理事会
- ・一般社団法人生命保険協会社会福祉機器寄贈事業贈呈式

二月

- ・在宅看護講座
- ・落部婦人ボランティア新年会
- ・第二十八回熊石高齢者ふれあい演芸会
- ・第一回評議員選任・解任委員会
- ・第三回八雲町民生委員推薦会
- ・平成三十年第二回渡島管内社協職員連絡協議会研修会 函館市
- ・第二回正副会長会議
- ・平成三十年度渡島管内社会福祉協議会巡回個別訪問
- ・北海道新幹線新八雲(仮称)駅周辺整備基本計画及び八雲町立地適正化計画策定検討会議
- ・在宅療養支援計画策定・評価委員会
- ・八雲地域の成年後見制度利用促進に関する情報交換会

三月

- ・生活支援体制整備事業に係る協議体開催
- ・熊石関内町内会安全安心ふれあいサロンの会
- ・第六回理事会
- ・ボランティアスクール
- ・平成三十年第二回管内社協会長・事務局長会議 渡島合同庁舎

生命保険協会函館協会より発電機寄贈

平成31年1月30日、一般社団法人生命保険協会函館協会南波剛会長よりインバーター発電機一式の寄贈がありました。

函館協会では、協会職員皆様の募金協力のもと、社会貢献活動として平成4年度から渡島・桧山管内の社会福祉協議会に対し、社会福祉関連事業に必要な物品・機器の寄贈活動を行っています。



貴重な財源でご寄贈頂き感謝申し上げますとともに、社会福祉事業のため大切に使用させていただきます。

- ・24時間テレビチャリティー福祉車両贈呈式 函館市
- ・八雲ボランティア四十五周年記念寄付金贈呈式
- ・第三回八雲町総合開発委員会
- ・第二回評議員会
- ・平成三十年度渡島地区ボランティア連絡協議会役員会並びに第二回渡島地区ボランティア推進会議 渡島合同庁舎
- ・八雲町社協指定八雲デイサービスセンター平成三十年第二回運営推進会議
- ・退職辞令交付式

四月

- ・辞令交付式並びに年度初め式
- ・八雲ボランティア総会
- ・八雲町身体障害者福祉協会総会

皆さんの温かい善意のご寄付

ありがとうございました

ボランティアセンター(愛情銀行)

平成30年12月16日～平成31年4月15日
(順不同・敬称略)

一般寄付

○八雲ボランティア45周年記念 50,000円

寄贈

○一般社団法人生命保険協会函館協会 インバーター発電機一式
○24時間テレビチャリティー委員会 福祉車両(リフト付きバス)1台

会報五十三号

八雲町社協だより

令和元年五月一日発行
二海郡八雲町栄町十三一
社会福祉法人 八雲町社会福祉協議会

FAX ☎ 01337164
01337164
6312112
160

赤い羽根共同募金の助成金は、八雲町社協だよりの発行にも役立てています。